



2020年12月期

決算説明会

2021年2月19日

SBSホールディングス株式会社

■ 目次

- 2020年度12月期決算概要
および 2021年度通期見通し … 2～17

- SBSグループの成長戦略 … 18～35

2020年12月期決算概要 および 2021年12月期の見通し

執行役員財務部長 遠藤 隆

20年12月期 連結業績 [対前期比]

- 新型コロナウイルスの流行で企業間物流が打撃を受けるも、宅配事業の拡大や不動産売却収益の増加で吸収し増収増益を達成
- 売上高および営業利益は3期（経常・当期純利益は2期）連続で過去最高を更新

（単位：百万円）

	19年度通期		20年度通期			
	実績値	構成比	実績値	構成比	増減額	増減率
売上高	255,548	100%	257,192	100%	1,644	0.6%
営業利益	10,176	4.0%	10,960	4.3%	784	7.7%
経常利益	10,172	4.0%	10,883	4.2%	711	7.0%
当期純利益	6,079	2.4%	6,826	2.7%	747	12.3%

20年12月期 連結業績 [対予想比]

- 新型コロナ禍で事務機をはじめ企業間物流が落ち込み、物流事業で計画比減収
- 好調な宅配や食品物流で補えず、物流事業の営業利益が計画未達。有価証券売却益を計上したことで最終利益は増加

(単位:百万円)

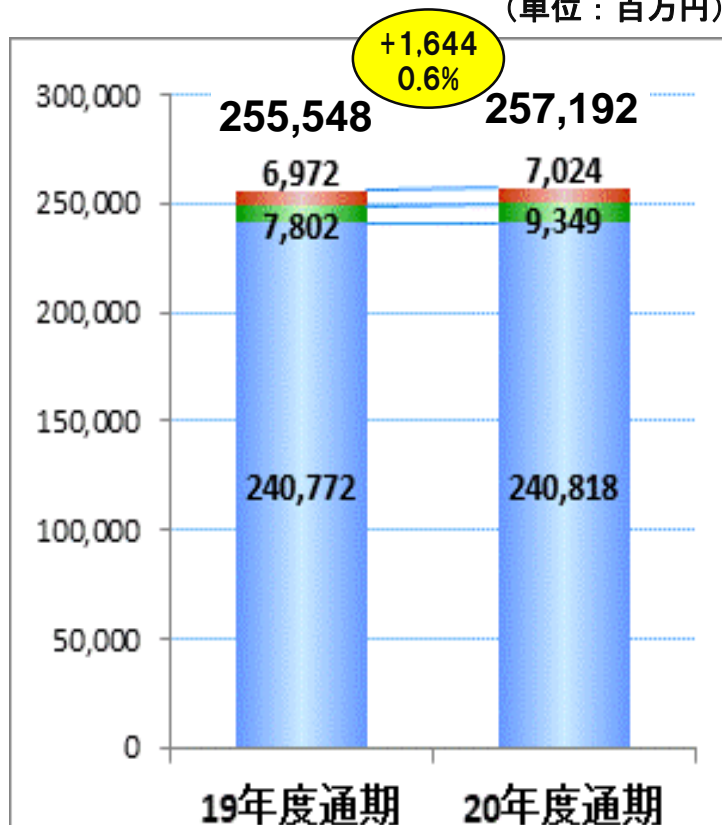
	20年度通期					
	予想値	構成比	実績値	構成比	差異額	達成率
売上高	265,000	100%	257,192	100%	△7,807	97.1%
営業利益	11,200	4.2%	10,960	4.3%	△239	97.9%
経常利益	11,000	4.2%	10,883	4.2%	△116	98.9%
当期純利益	6,500	2.5%	6,826	2.7%	326	105.0%

セグメント別業績 [対前期比]

- 不動産事業の収益拡大が寄与し、グループ全体では増収増益を確保

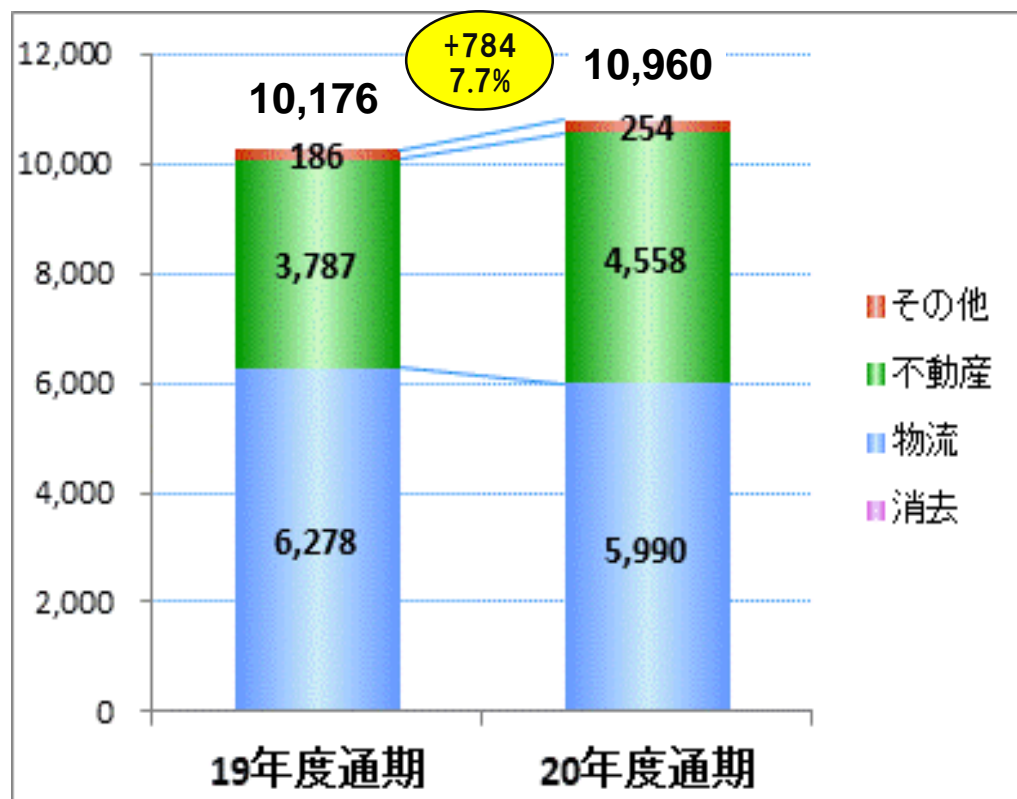
連結売上高

(単位：百万円)



連結営業利益

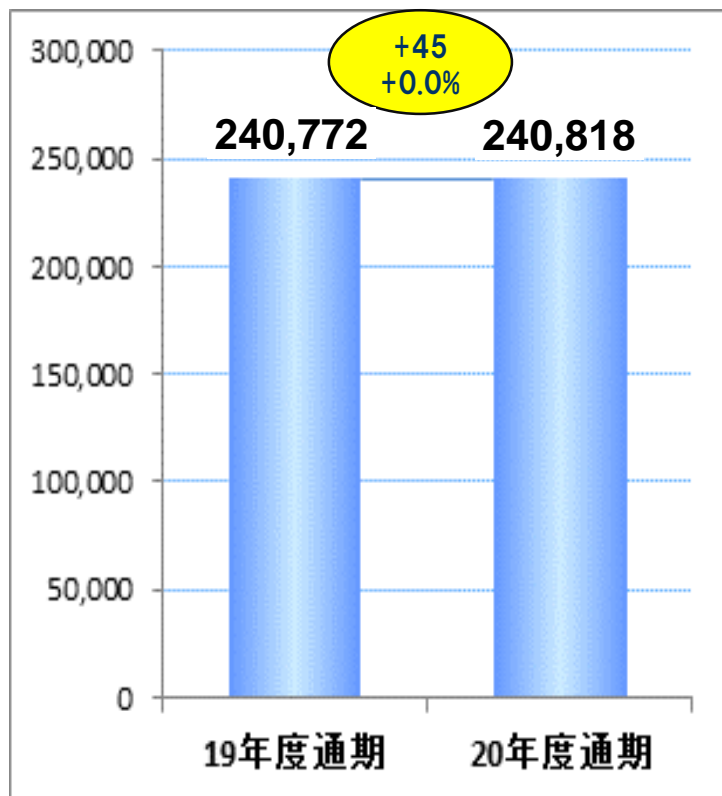
(単位：百万円)



- コロナ下の巣ごもり消費拡大で宅配や食品物流は好調に推移したものの、事務機・百貨店などの企業間物流の不振をカバーできず、売上高横ばい・営業減益

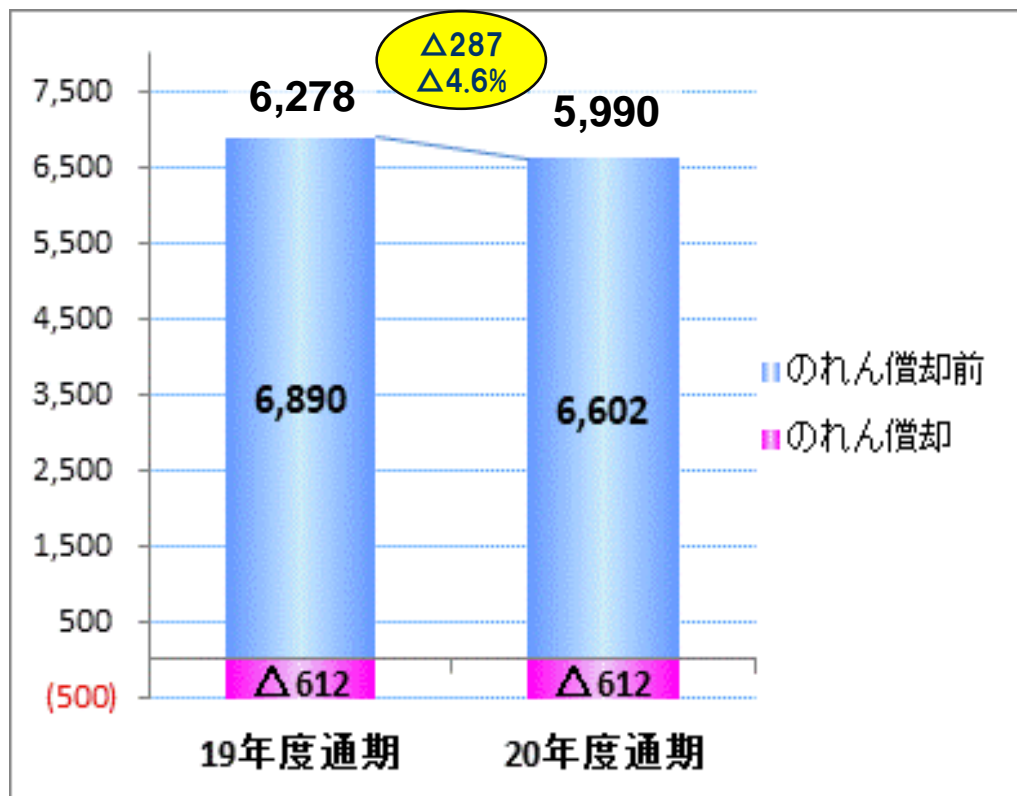
連結売上高

(単位：百万円)

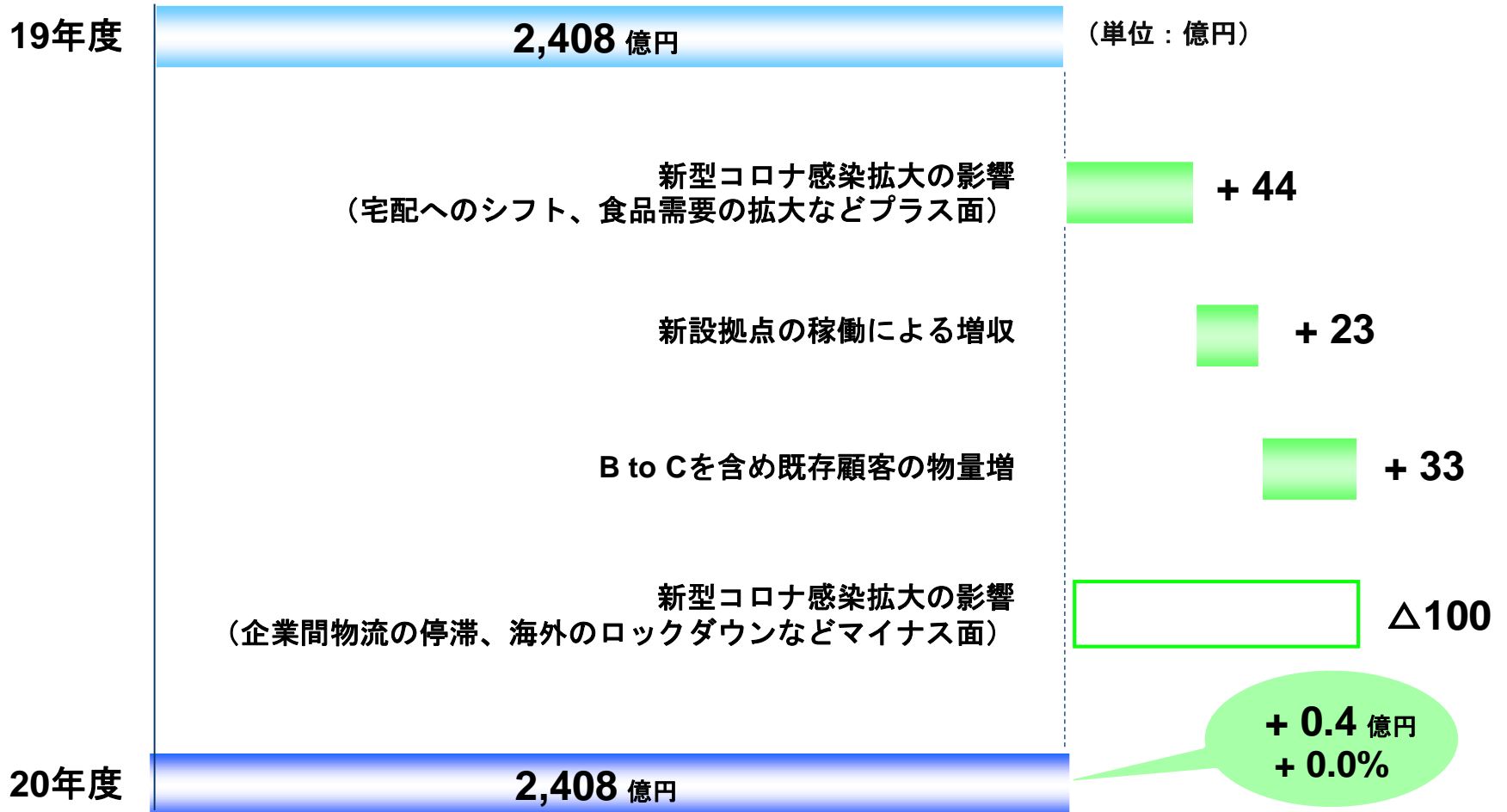


連結営業利益

(単位：百万円)

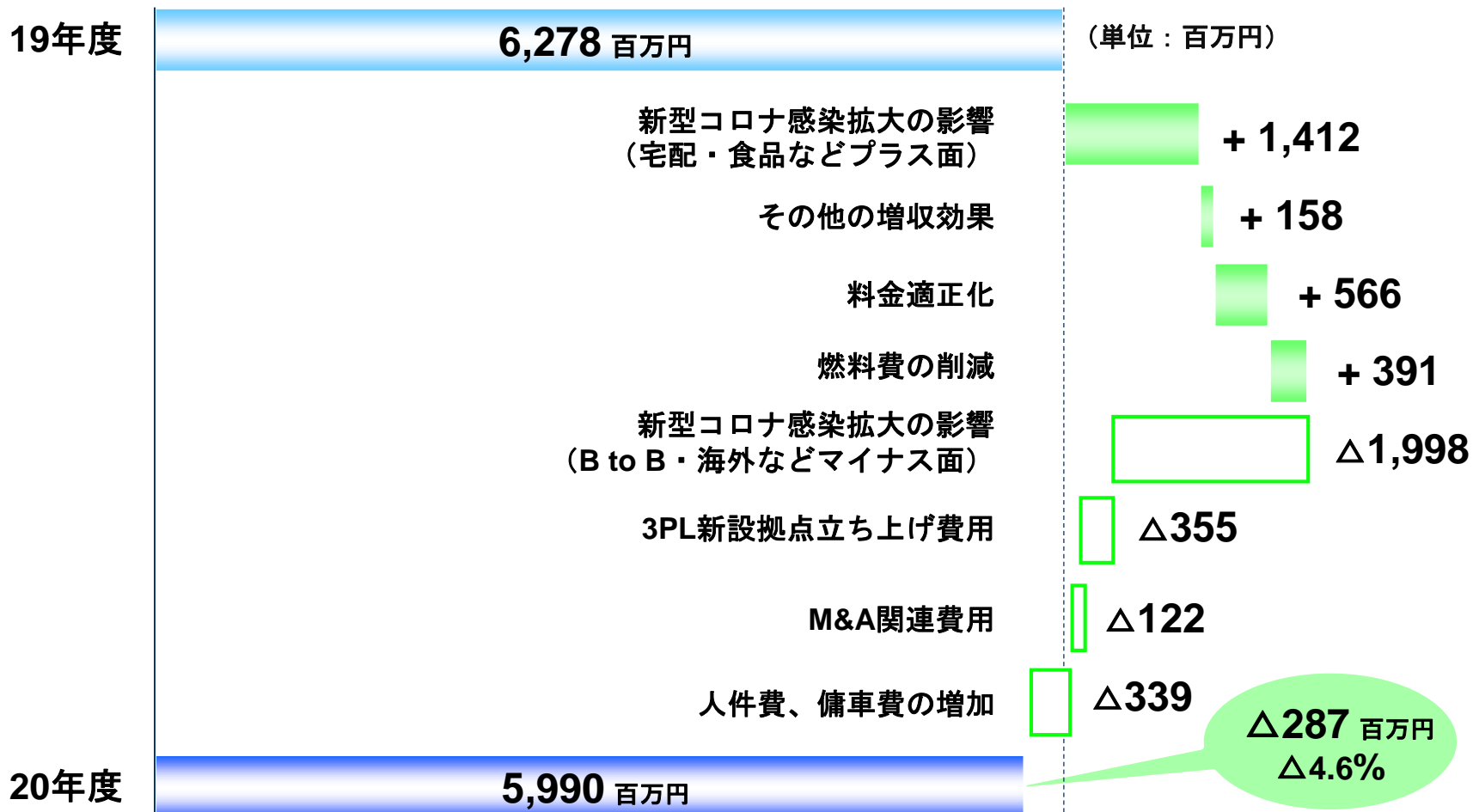


- 新型コロナ流行による事務機や百貨店、イベント・外食関連の落ち込みを、ECなど宅配や食品物流の伸びでカバー



物流セグメント営業利益 [要因分析]

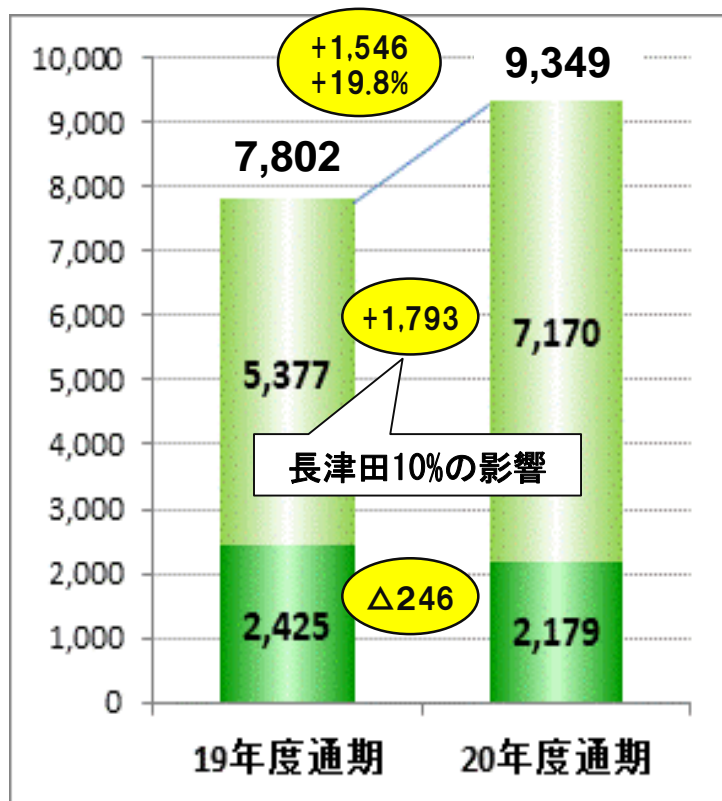
- コロナ感染拡大に伴い国内外で企業間物流の採算が悪化し、在宅需要拡大による宅配の好調等で補いきれず営業減益



■ 長津田物流センターの譲渡比率上昇（前期30% → 当期40%）により増収増益

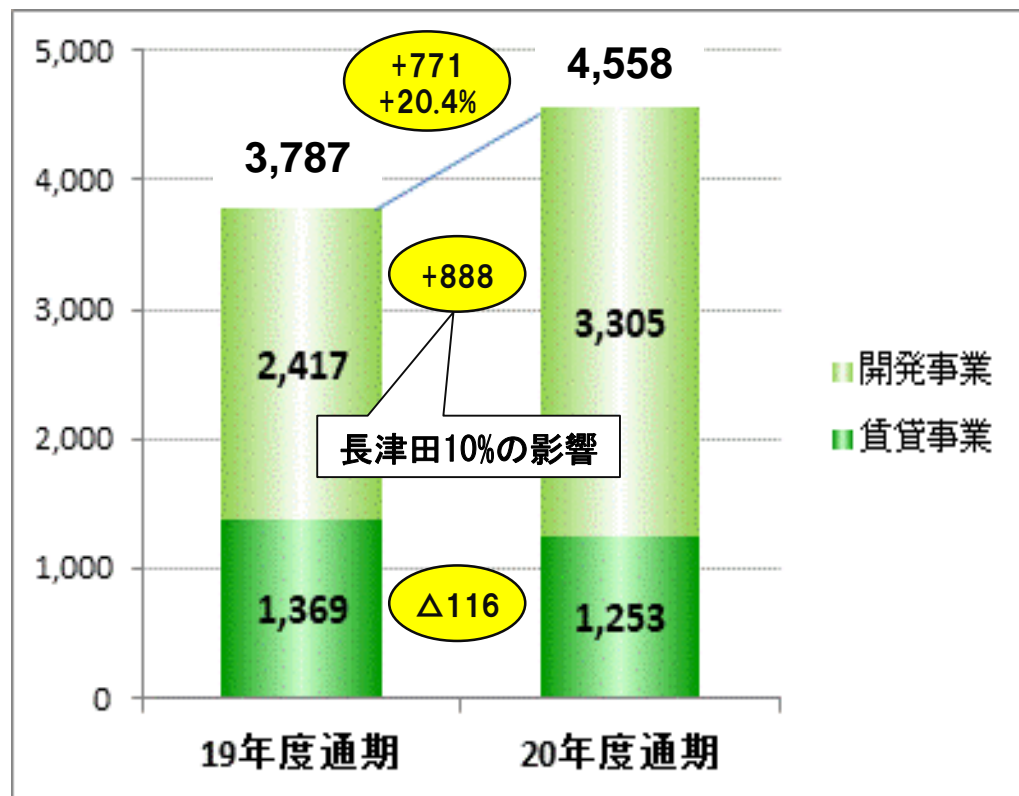
連結売上高

(単位：百万円)



連結営業利益

(単位：百万円)



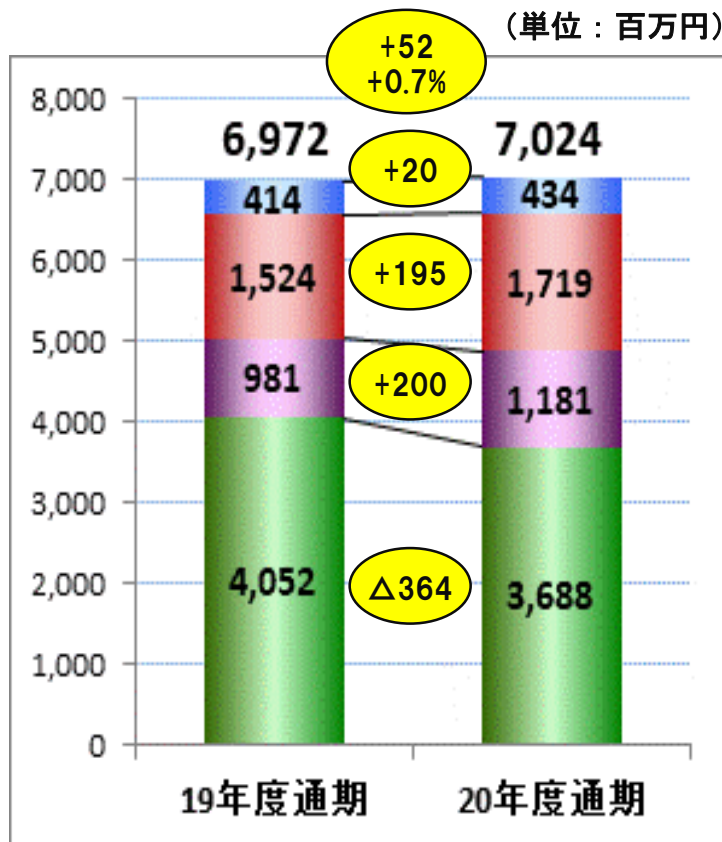
※ 開発事業：物流施設を建設し機関投資家等に売却（流動化）する事業

※ 貸貸事業：保有する物流施設、オフィスビル、レジデンス等を賃貸する事業

■ 人材事業は苦戦したが、太陽光・マーケティング・環境が堅調で増収増益

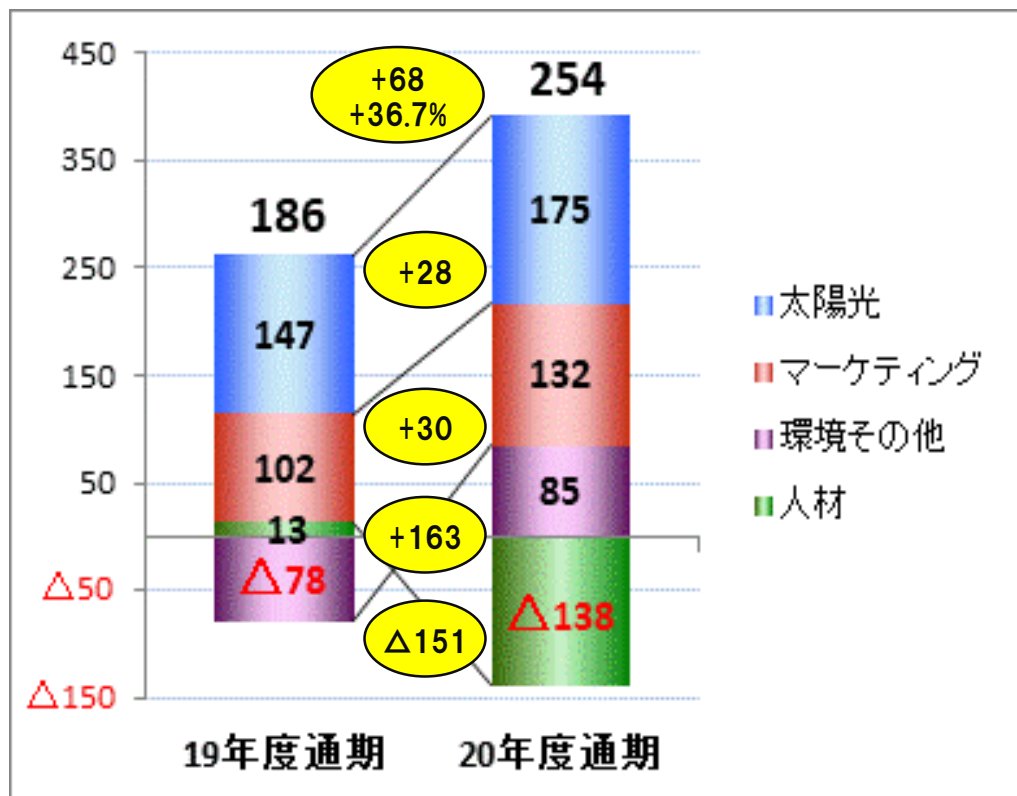
連結売上高

(単位：百万円)

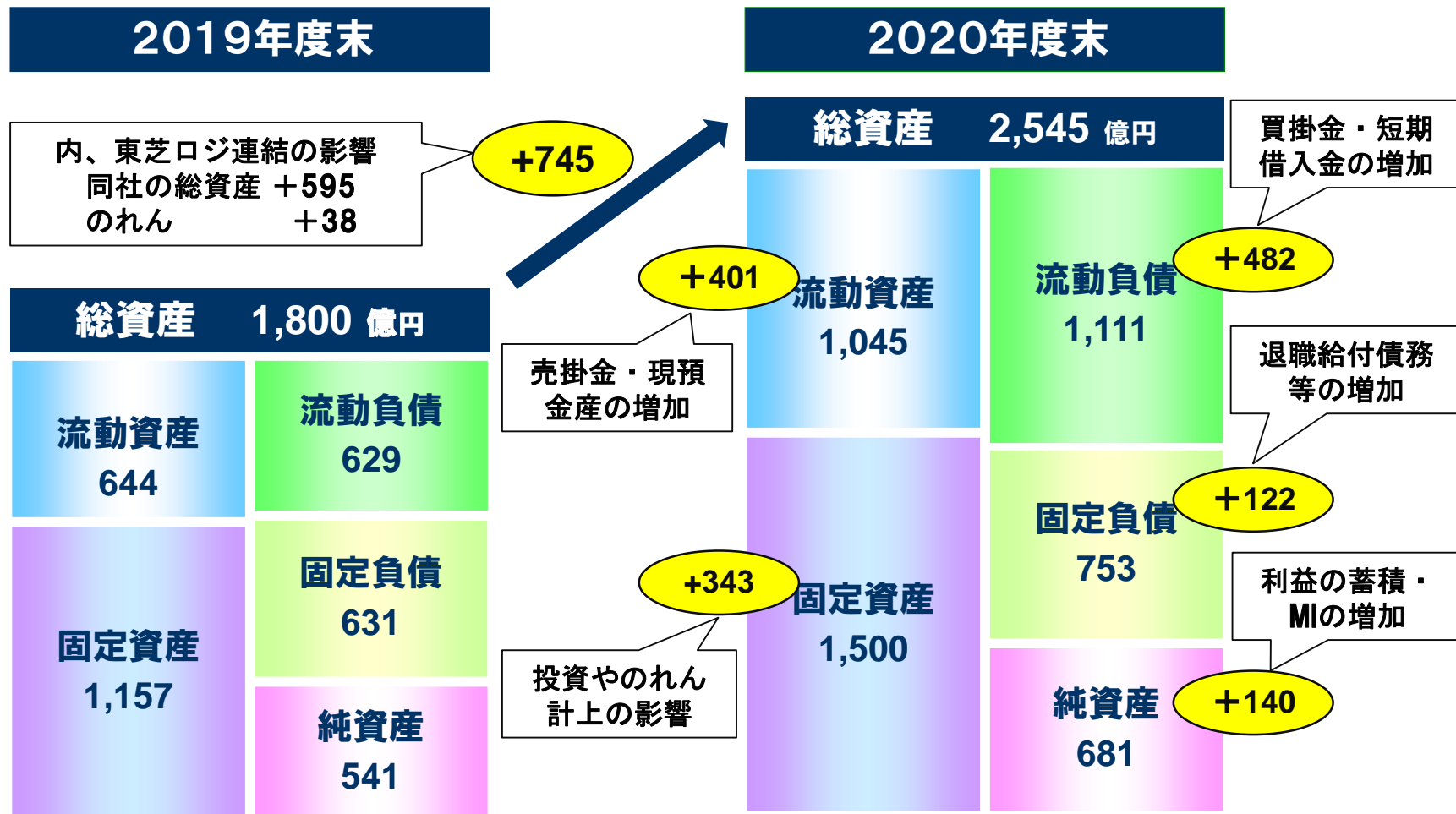


連結営業利益

(単位：百万円)



- 東芝ロジスティクスの新規連結に伴い資産規模が拡大。買収資金で有利子負債増加

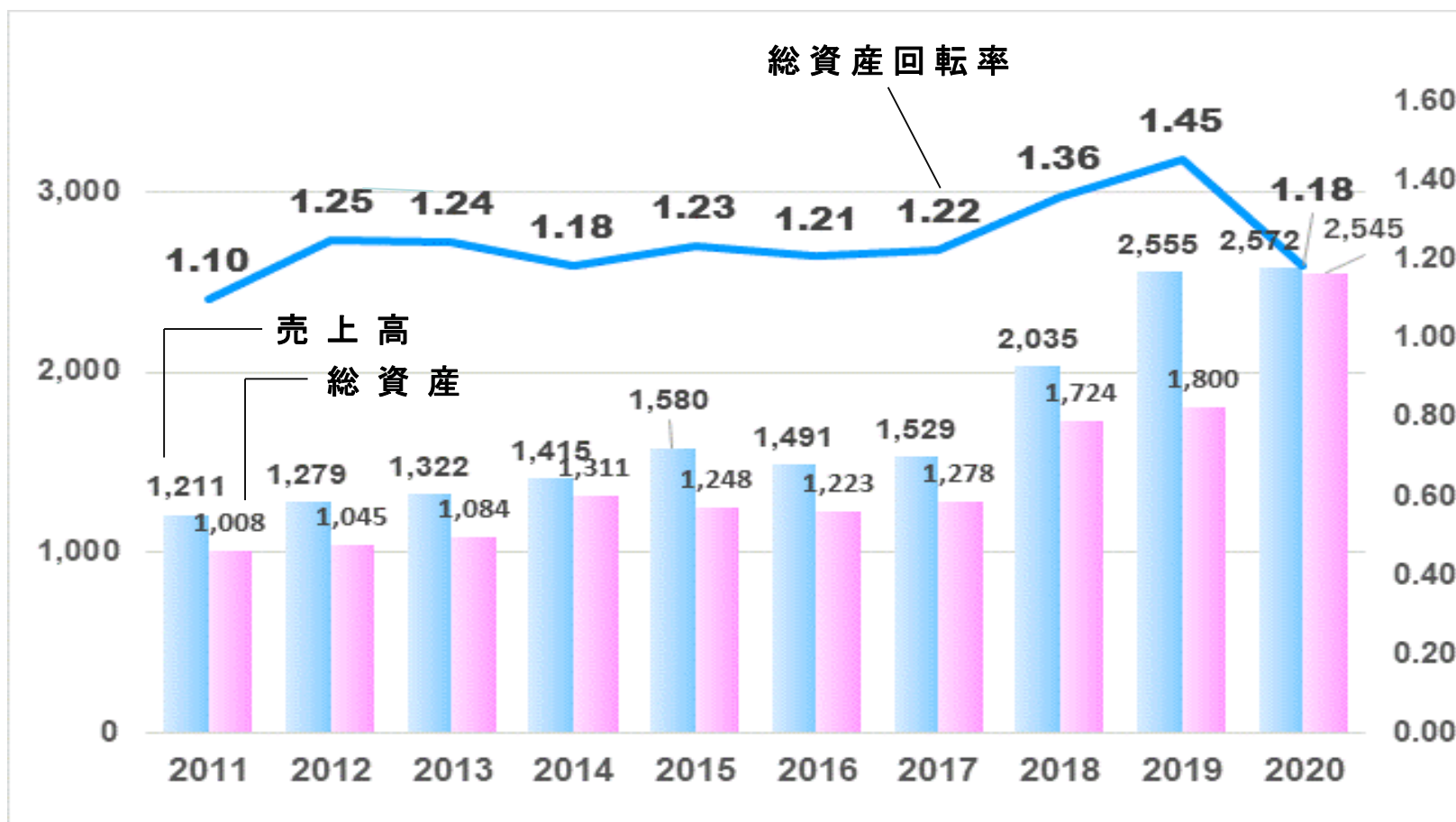


資産効率指標 [総資産回転率]

- 長期的には改善傾向にあったが、当期は東芝ロジをオンバランスした影響で足踏み。今後は売り上げ拡大に伴い再び上昇トレンドへ回帰する見通し

売上高・総資産
(億円)

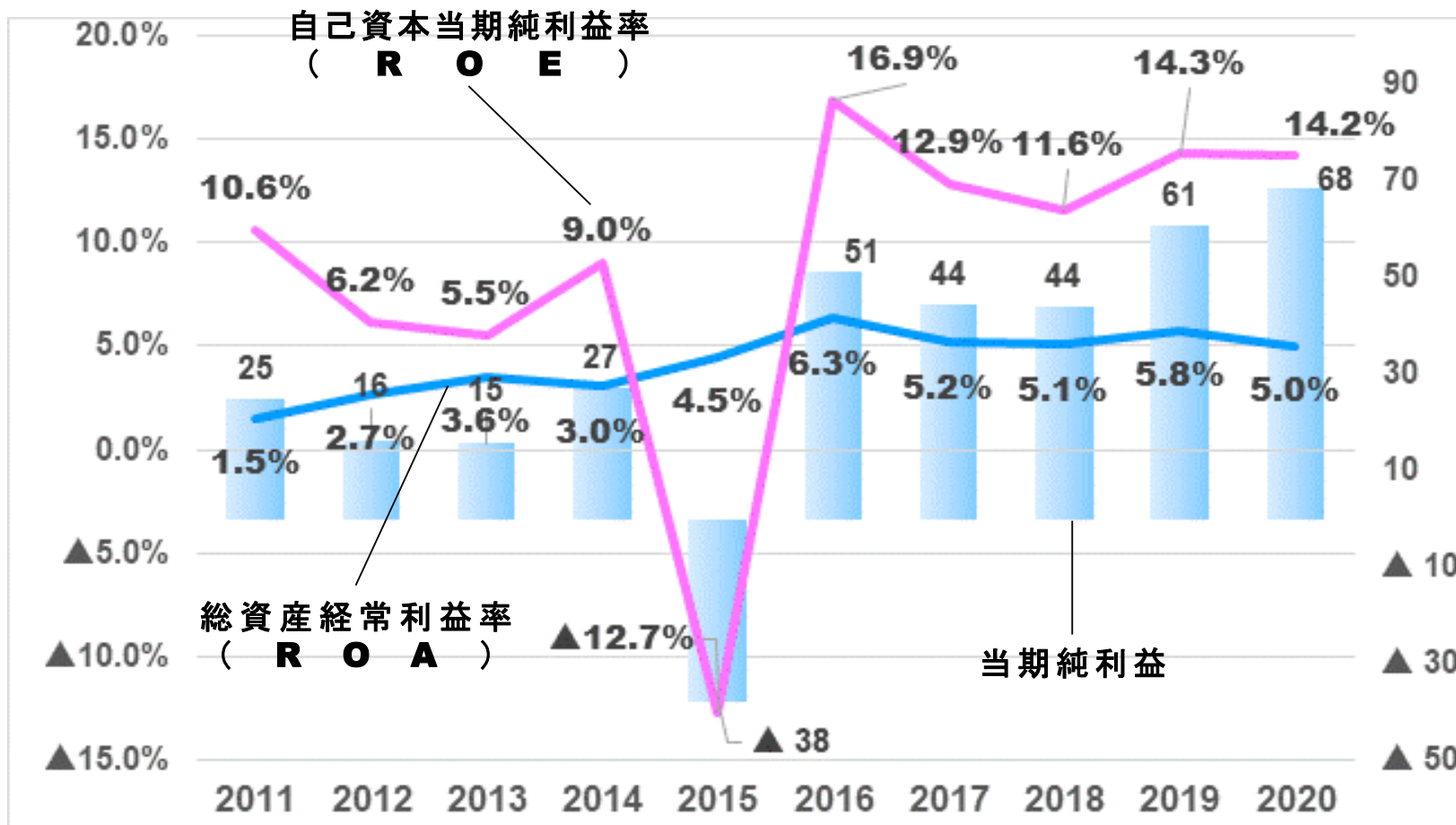
総資産回転率
(回)



■ 2016年度のV字回復後、自己資本利益率は10%超の高い水準を達成継続中

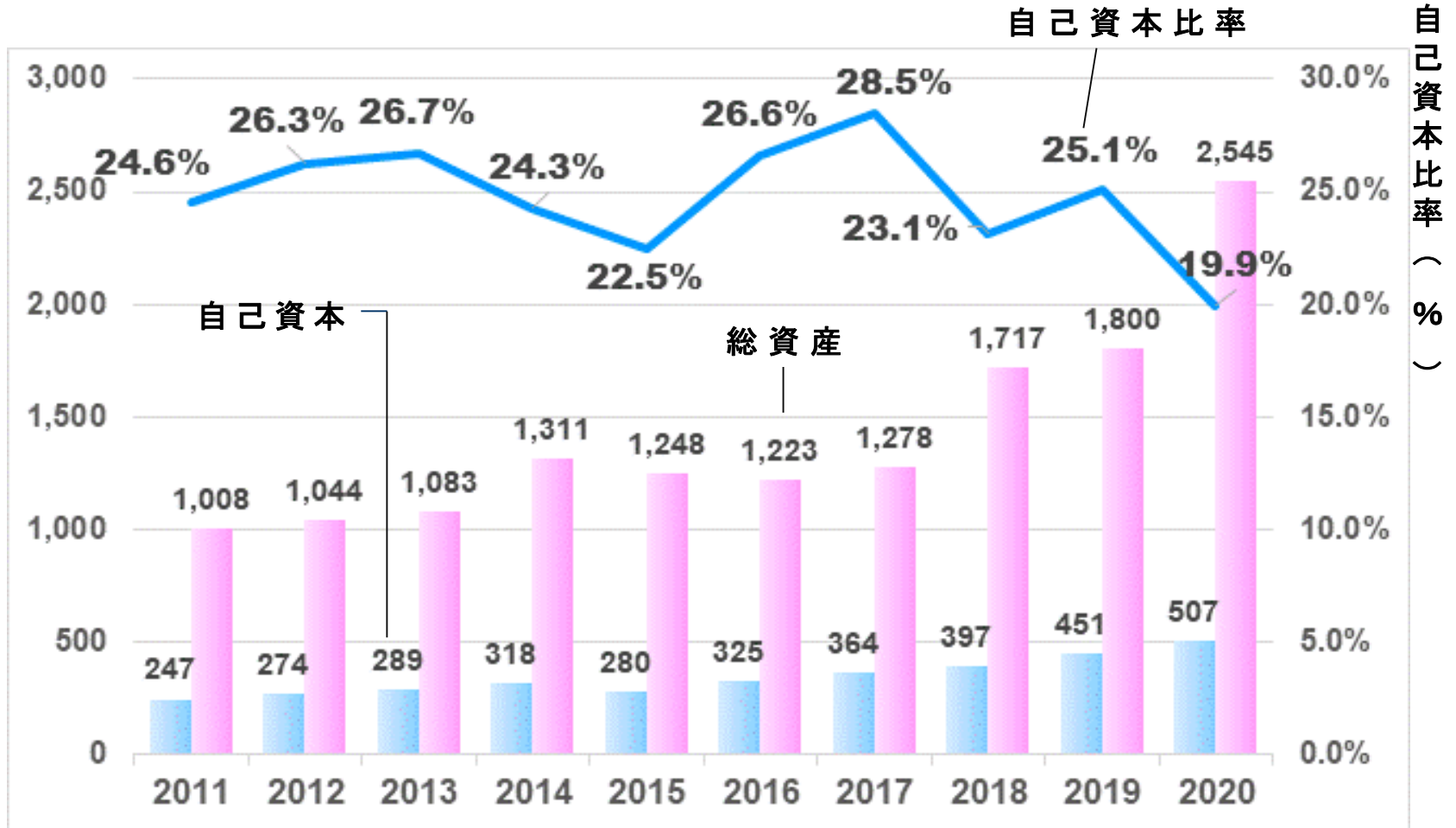
総資産経常利益率・自己資本当期純利益率（%）

当期純利益（億円）



- M&Aの影響で足元は低下しつつも、今後は利益の積み上げで財務基盤を改善

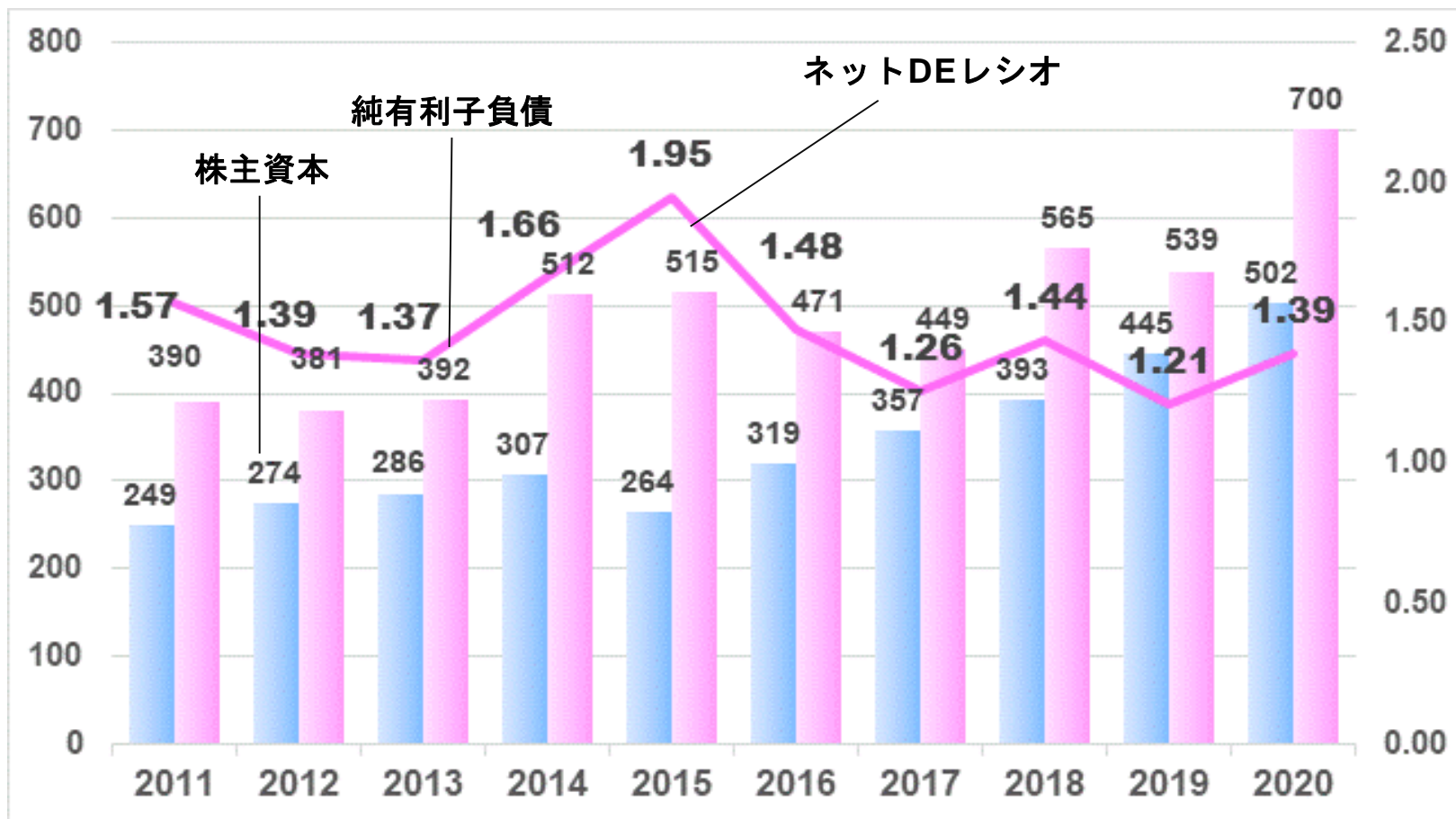
総資産・自己資本（億円）



- 2015年度にピークをつけて以降、利益蓄積により低減傾向。当期は買収影響で一時的に比率上昇

純有利子負債・株主資本（億円）

ネットDEレシオ（倍）



- 東芝ロジスティクスの連結子会社化などにより大幅な増収増益
- 売上高・営業利益ともに、4期連続で過去最高を更新する見通し

(単位:百万円)

	2020年度		2021年度			
	実績値	構成比	予想値	構成比	増減額	増減率
売上高	257,192	100%	380,000	100%	122,807	47.7%
営業利益	10,960	4.3%	15,000	3.9%	4,039	36.8%
経常利益	10,883	4.2%	14,800	3.9%	3,916	36.0%
当期純利益	6,826	2.7%	8,400	2.2%	1,573	23.0%

- 【物流事業】 東芝ロジの収益取り込みに加え、既存グループ会社がコロナ危機からの立ち直りを加速
- 【不動産事業】 販売用不動産の流動化による収益拡大

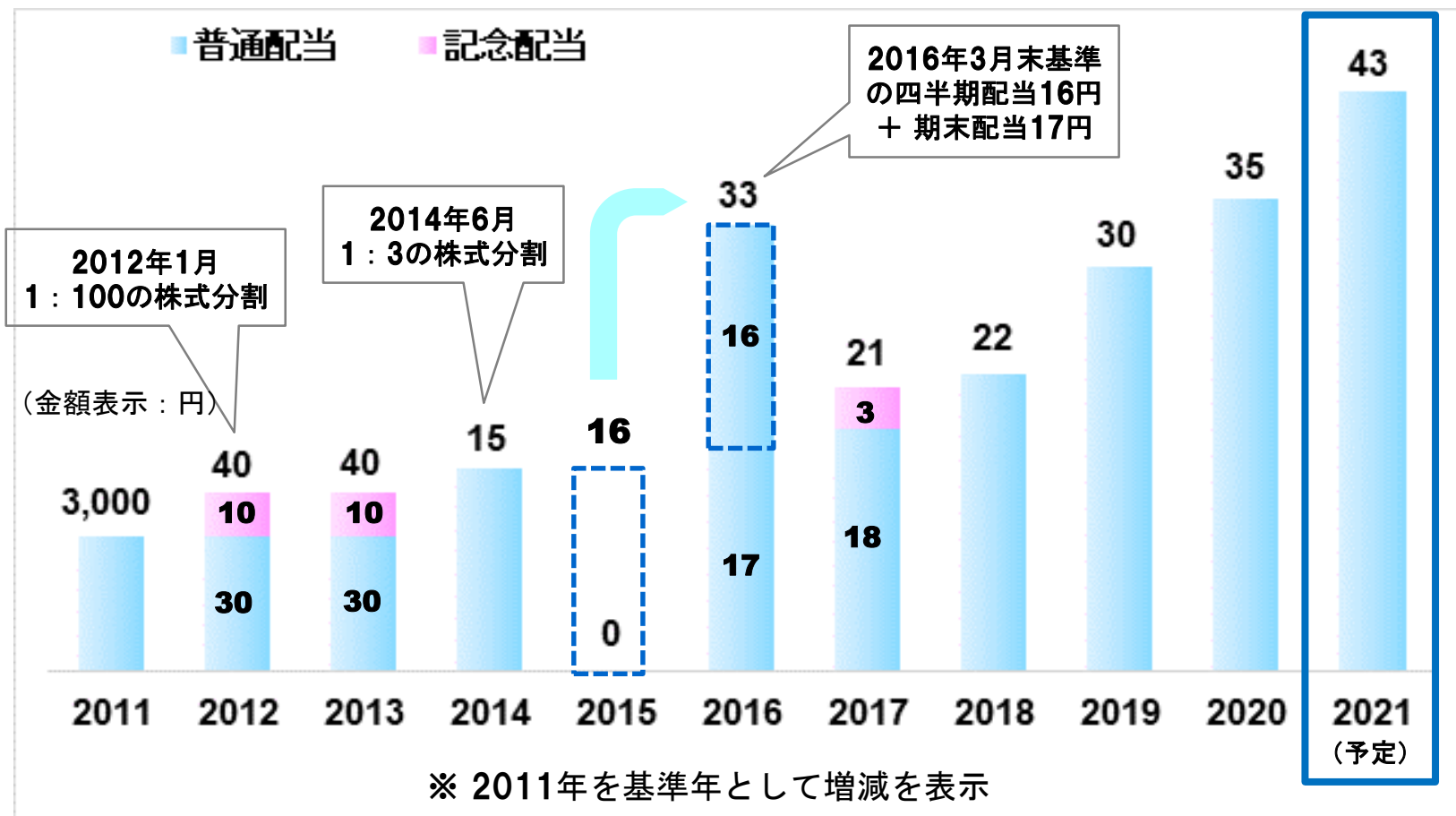
(単位:百万円)

セグメント		2020年度 実績値	2021年度		
			予想値	増減額	増減率
物 流	売上高	240,818	354,800	113,982	47.3%
	営業利益 利益率	5,990 2.5%	8,500 2.4%	2,510	41.9%
不 動 産	売上高	9,349	17,000	7,651	81.8%
	営業利益 利益率	4,558 48.8%	6,200 36.5%	1,642	36.0%
そ の 他	売上高	7,024	8,200	1,176	16.7%
	営業利益 利益率	254 3.6%	350 4.3%	96	37.8%

※上記各セグメント営業利益の合計額に連結消去等の調整をした結果が損益計算書の営業利益となります。

株主還元 [1株あたり配当金の推移]

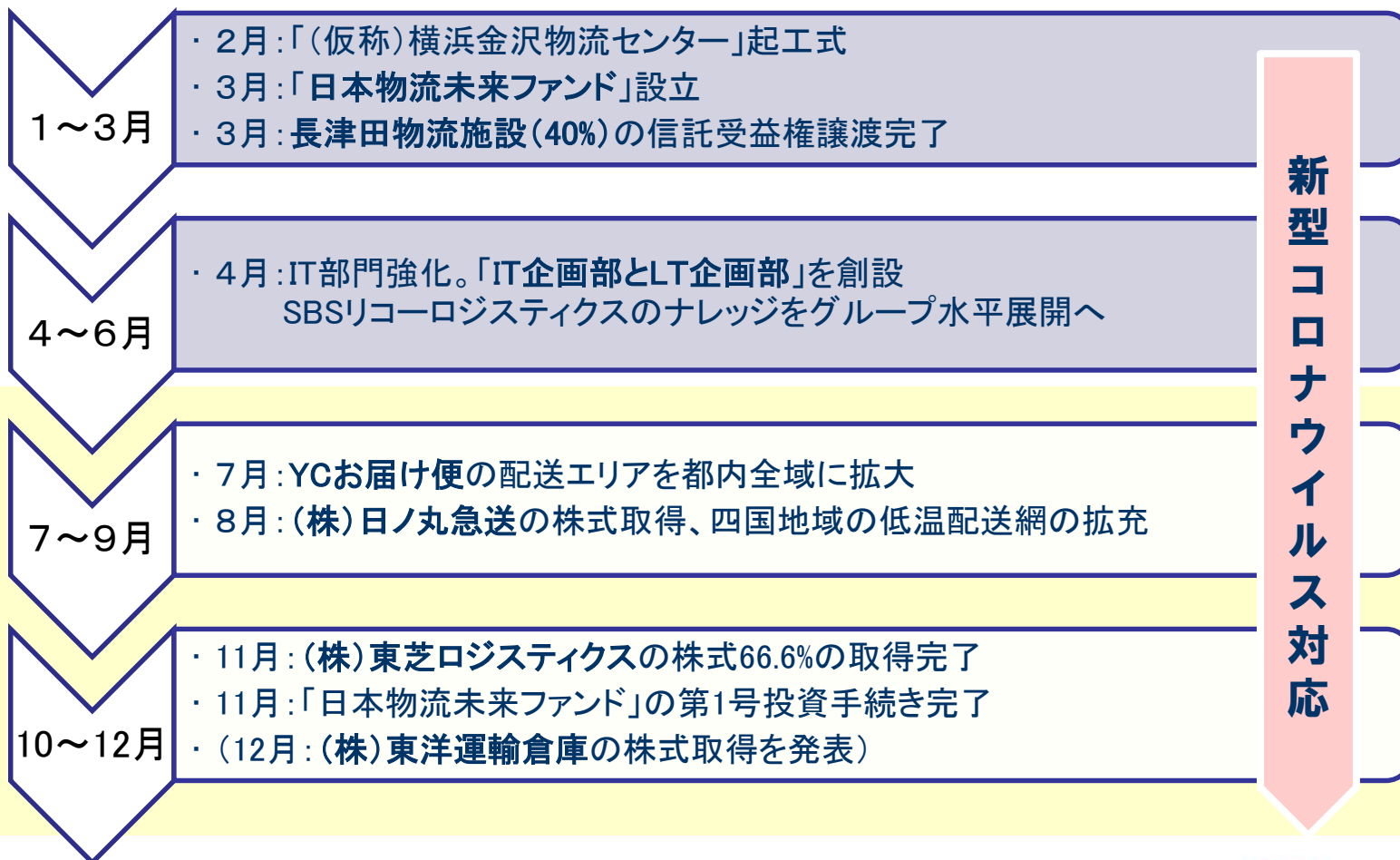
- 継続的な配当維持と業績に応じた配当水準の向上に努めることが基本方針
- 1株あたり配当金は過去10年で実質3倍超と、株主還元を強化



SBSグループの成長戦略

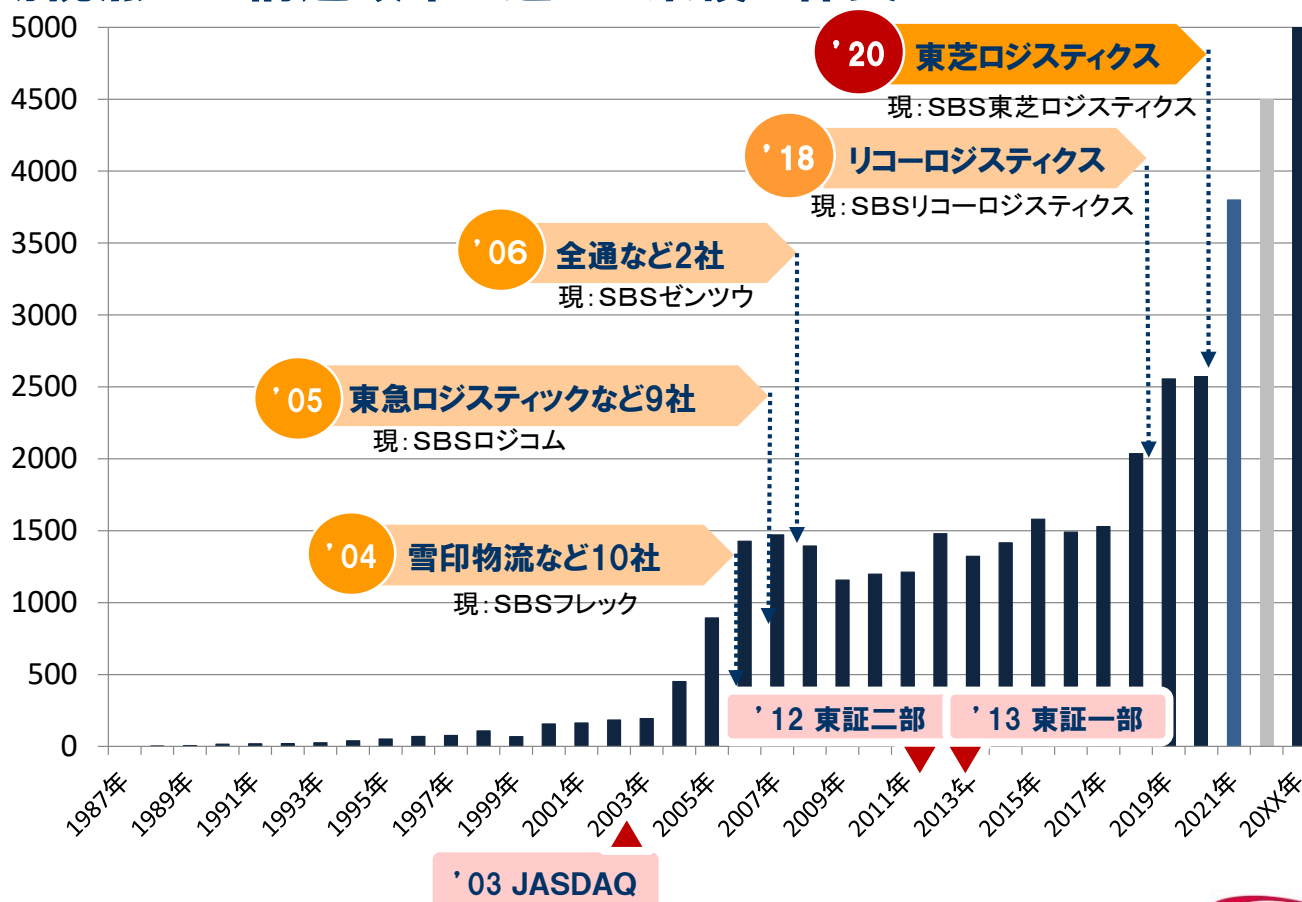
代表取締役 鎌田 正彦

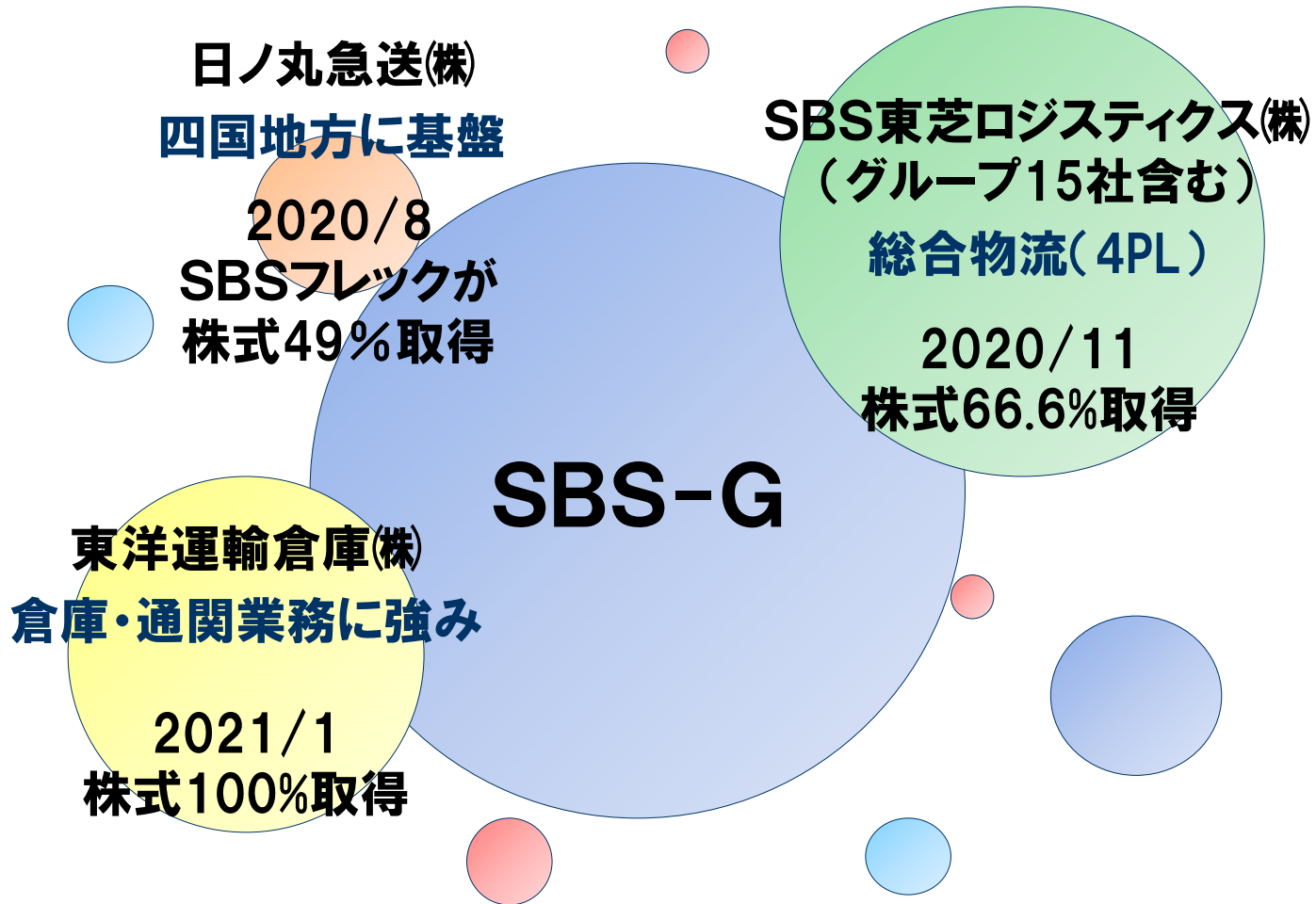
- ◆ 新型コロナウイルスの影響を最小限にいとめながら、M&A、物流施設開発、ラストマイル配送網拡充などへ取り組みを加速
- ◆ IT・LTの戦略的な展開を企図し、組織再編等の基盤づくりを推進



PMIを通じた、確実な成長を実現

- 安易なリストラを回避し、人材再配置・リソースの再配分など、長期視点での構造改革を通じて業績を伸長





配送網の拡充、サプライチェーンのサポート体制強化
…売上高5,000億円が視野

■ SBS東芝ロジスティクスとのPMI推進(FY2021～)

物流施設の
相互利用/
建替え

LT活用
(ロボット化
推進)

海外拠点の
最適配置

基幹システ
ムの統合

サービスラインナップの拡充、競争力強化

顧客ベースのさらなる拡充へ



中国での重量物輸送
(東芝ロジスティクス時代)

■ 「スモールM & A」による物流インフラの強化

- ・ 四国エリアでのサービス拡充 日ノ丸急送(株)
- ・ 首都湾岸エリアで物流倉庫獲得 ... 東洋運輸倉庫(株)
- ・ 首都圏での配送網強化 (株)アイアンドアイ千葉中央 ※

※ 日本物流未来ファンドが出資



“巣ごもり消費”関連需要が急伸長

- ・ ラストワンマイル
- ・ 生協宅配
- ・ 食品スーパー
- ・ ドラッグストア
- ・ ホームセンター

オフィス需要、インバウンド、海外物流は縮小

- ・ オフィス機器、サプライ用品
- ・ 海外事業(輸出入関連)
- ・ インバウンド需要
ー 百貨店、ホテル、外食など
- ・ 新規拠点立ち上げも停滞

- ・ 伸長している需要の積極的な取り込み
- ・ 人材・インフラの再配分(繁閑調整)
⇒ 増収・増益基調を継続

- 2020年4月、SBSHDとSBSリコーロジスティクスの情報システム部門を再編し、IT技術の戦略的導入を推進

グループ各社が有するスキル、ノウハウの融合、蓄積、ナレッジを共有し、次世代物流施設開発など、ITを活用した物流現場改革に取り組む

■ プロジェクトの類型

- ① 既存のビジネスの効率化、サービスレベルの向上
- ② 稼働中の拠点へ、(業務を継続しながら)段階的導入
- ③ 新設物流施設への設計段階からの導入
- ④ 高い専門性を有するITベンチャーの開発支援、共同研究

■ 宅配事業配送システム開発

急拡大する宅配事業で、特に高いサービスレベルが求められる
BtoC配送をサポートする“次世代配送端末”を構築



商品検品

集荷受注



GPS位置検品

最適ルーティング

音声ソリューション

宅配BOX
暗証番号登録

置き配撮影

不在票出力



電子決済

電子サイン

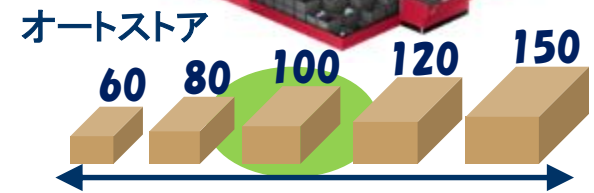
■ SBSロジコムが3PLビジネス向けの拠点を皮切りに、次世代型のロボットを活用した現場の装置化を段階的に拡充

- 2021年秋以降、現在の業務を稼働させながら順次導入
- 既存拠点リプレイスのモデルケースへ



■ 横浜金沢物流センター(7月竣工予定)における、大規模LT設備導入計画

- SBSリコーロジスティクスのお客様向け専用センター(BTS)として、既存拠点の処理能力倍増を目指す



梱包設計



バーコード検品



機械学習による検品レス



DPS



搬送コンベア



自動梱包機

■ 外付型AI運転アシスト機器の開発支援(2019/12~)

- SBS自動車学校のコースで、機器テストや追加データの収集
- SBSグループの稼働車両1,500台に試作機を搭載し、走行データを提供



■ iGOQの車両登録社数増加(2020/01~12)

- 新型コロナ禍の影響もあり、登録社数は前年の約2倍に。マッチング率も上昇



iGOQ

■ 物流事業でのドローン活用研究(2020/12)

- 山間部での小口荷物配送を想定し、SBSロジCOMの物流センターにて、ベンチャー企業との実証試験



■ SBS即配サポートの既存荷主を基軸に、 SBSリコーロジスティクスの配送ネットワークを生かし 複数EC企業様の宅配業務や即配業務を推進

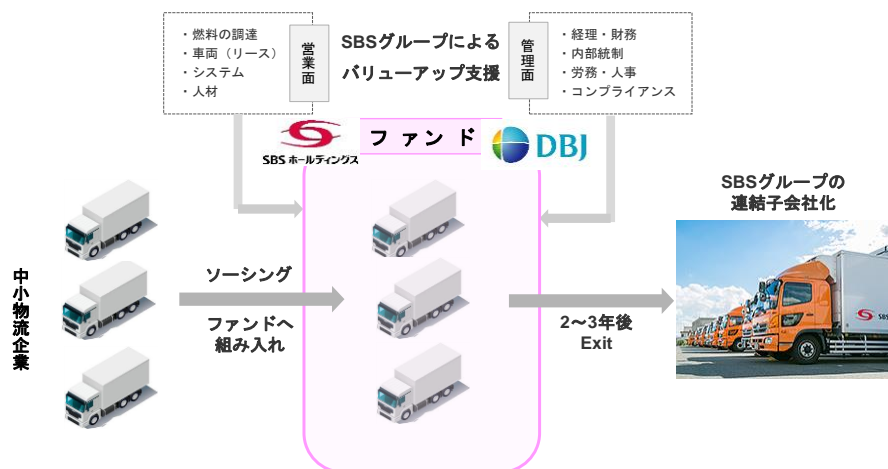
- 首都圏で受託しているSBS即配サポートのお客様の全国配送業務をSBSリコーロジスティクスが推進
- 関西、九州などにも対応エリア拡大中



■ 新規ネットワークの拡大

● 日本物流未来投資ファンド

- ・千葉県内の軽貨物運送事業者へ出資実行(第1号案件)
- ・第2号、第3号案件の成約に向け活動中



● YCお届け便(読売新聞社との共同配送網)

- ・都内23区全域へ配達エリア拡大と全時間帯への対応済
- ・多摩エリアへの拡大を準備中

国内3PL事業者のトップティア入りへ！

- SBS東芝ロジスティクス連結以降は、10位→5位以上へランクイン見込み

【参考】SBSグループの「3PL」定義

- ① 複数年契約
- ② 2種類以上の物流機能を一括受託
- ③ 荷主との直接契約

2019年度 3PL売上高ランキング

順位	会社名	決算月	18年度	19年度
1	日立物流	3	449,400	455,600
2	センコーグループホールディングス	3	305,520	330,360
3	日本通運★*	3	185,000	180,000
4	日本アクセス*	3	172,006	171,945
5	郵船ロジスティクス★	3	200,000	171,000
6	近鉄エクスプレス	3	176,100	163,508
7	ヤマトホールディングス	3	147,437	143,934
8	キューソー流通システム	11	141,175	143,017
9	SGホールディングス	3	131,557	135,823
10	SBSホールディングス	12	88,900	126,205

出所：月刊「LOGI-BIZ」2020年9月号

新規拡大／既存深耕 2020年主要稼働案件

- 2月～ ホームセンター様：センター運営・配送
- 4月～ 食材、菓子等輸入卸様：食品物流
- 4月～ ネット通販様：飲料水の保管・配送
- 6月～ 電子部品卸様：物流拠点再編
- 6月～ 福祉用具総合メーカー様：物流センター運営
- 10月～ 容器包装メーカー様：輸配送網再編



物流施設増床計画、50万から100万坪へ 31

名称	規模 (延床面積/坪)	稼働時期	種別	使用会社
既存 (2020年12月末)	531,000 坪			
1. SBS東芝ロジスティクス	200,000	2021年1月	M&A	SBS東芝ロジスティクス
2. 東洋運輸倉庫	18,000	2021年1月	M&A	東洋運輸倉庫
3. 横浜金沢	15,430	2021年4月	開発	SBSリコーロジスティクス
4. 厚木森の里	17,400	2022年5月	賃貸	SBSリコーロジスティクス
5. 野田瀬戸A	44,000	2023年(予定)	開発	SBSロジコム
6. 野田瀬戸B	32,000	2024年(予定)	開発	計画中
7. 一宮土地(愛知県)	18,000	計画中	開発	SBSリコーロジスティクス
8. 富里土地(千葉県)	30,000	計画中	開発	SBSロジコム他
増床見込 (1.~8.)	374,830 坪			
合計 (既存+増床見込)	905,830 坪			

※ 別途、既存倉庫建替えによる増床も検討

■ 2020年3月売却済：長津田物流センター

- 一括賃貸中の物流施設を3分割して譲渡
 - 18年30%、19年30%、20年40%と、一定の水準に調整し信託受益権譲渡
 - 合計譲渡価額179億円、営業利益81億円



- 敷地面積：14,392坪
- 延床面積：13,235坪
- 主要顧客：飲料メーカーへ賃貸
※不動産(賃貸)事業

■ 2021年度中売却予定：南港物流センター

- 一括譲渡(分割なし)

南港物流センター



- 敷地面積：7,519坪
- 延床面積：18,357坪
(低温庫3,000坪含)
- 主要顧客：百貨店、ドラッグストア等
※自社物流事業
(SBSロジコム(株)南港物流センター支店)

■ 開発中

● (仮称) 野田瀬戸物流センター

- 敷地面積：約4.4万坪
- 延床面積：約8.0万坪
 - A棟4.4万坪
 - ('22年着工予定)
 - B棟:3.2万坪:計画中



● (仮称) 横浜金沢物流センター

- 敷地面積：8,000坪
- 延床面積：約1.6万坪
- 着工：2020年2月
- 竣工：2021年7月(予定)



■ 計画中(土地取得済)

- 愛知県一宮市(9,000坪)
- 千葉県富里市(15,000坪)

■ グループ成長戦略とCSR経営が一体化

- 社会インフラに携わる企業としての責務
「環境への配慮」「安全水準の向上」「多様性の尊重」
⇒ 社会発展への貢献
- CSR経営により、SBSグループの「持続的成長」「物流改革」を実現
- BUSINESS & CSR REPORT 2020（2020年9月発行）

https://www.sbs-roup.co.jp/sbsh/pdf/sbsh_csrreport2020_fulltext.pdf



児童の絵画を車両にラッピング（SBSゼンツウ）



環境配慮型車両を導入（SBSゼンツウ）

■物流業界トップティアとして、 独自の存在感を発揮するための基盤構築

1. 輸配送機能の有機的連携拡充と強化
2. 国際事業連携の機能整理
3. IT・LTの戦略的導入、提案強化
4. 3PL・4PLで競争力のある分野への拡大営業推進
5. HDにて「成長戦略プロジェクト」発足。各種制度やシステムの共通化を図り、グループ組織力を強化

ロジ×ITで持続的成長を実現する
「メガベンチャー」に！



SBS GROUP

For Your Dreams.